レポート

第6回 青年県外研修

今年は国際青年年――これを記念した「第六回岩室村青年県外研修派遣事業」が、七月十九日から二十二日の四日間、埼玉県の加須市を中心に行われました。今年の派遣団員は男子二人、女子一人(下表)の少数でしたが、青年の家を拠点に埼玉県の青年活動についての講義を受けたり、地元の青年たちとの交歓会を通して青年団体活動の意義など多くのことを学んで来ました。参加したみなさんから研修の感想などを書いていただきましたので、ご紹介します。

埼玉の青年との交流会(加須青年の家で)

高村俊秀

(橋本・19歳)

同じメンバーでもいいんだ みんなで何かやることが…

埼玉県――どんなイメージが浮かんでくるでしょうか?

東京近郊の都市で中央の影響がすごく強いんじゃないかな、と思って今回の研修に参加しました。三泊四日の研修の内容は、埼玉県の青年団体や産業・文化についての講義を受けたり、地元の青年たちとの交流会が開かれました。また市内見学として、古墳群、水族館、加須の鯉のぼり屋さんなどを見て回り、三日目は長瀞(ながとろ)町の長瀞へ行ってきました。

今回の研修では多くの人と出会いました。みんなおおらかな性格で、話を聞いているとこちらまで楽しくなってくるのです。まったく知らない土地なので緊張していたのですが、心がなごやかになり助かりました。

研修の目的は「都市近郊の青年活動」ということで、加須青年の家の先生から、埼玉県は大宮・浦和を中心とする県南と群馬・茨城の県境に近い県北に分かれ、県南はほとんど東京っていう感じで過密が進行している。一方、県北は農業地域で過疎問題が深刻化しているなどの相反する現状の講義がありました。私たちが交流した青年は皆、県北の人たちでした。ここでの交流で、現在、青年団体活動に参加する人が少なくなってきている、という話がありました。団体での活動をあまり好まなく、制約を受けることをきらう、いわゆる自由な活動を望んでいる「フリー感覚」の人が多くなってきているとのことでした。これは、岩室村における青年団体活動の現状でもあるかと思います。

交流会は、フリートークの形でざっくばらんに話し合いが行われました。それで海も山も最高!と思いっきり〝岩室村〟をPRしてきました。「同じメンバーでもいいのです。みんなで集まって何かやってことが大切なんだ…」と言っていた埼玉の女の子。そして実際イベントを企画し実行していく姿―そういうのが好きです。今回の研修では、たくさんのことを得ました。自分の目で見て耳で聴いて体で体験して……すごく勉強になった研修でした。

■青年県外研修派遣団員
(敬称略)

高村　俊秀
(19歳・橋本/会社員)

海津　秀也
(19歳・和納3区/学生)

樋浦　清美
(20歳・和納6区/公務員)

■引率

小林　仁
(社会教育課社会教育主事)

海津秀也

(和納3区・19歳)

もう一度考えてみたい 青年団体活動を……

六回目の青年県外研修団員として、七月十九日から二十二日までの四日間(三泊四日)、埼玉県の加須市に産業・文化そして青年団体の活動について研修してきました。今回の研修団員は、派遣団員が五人のところ、三人しか参加者がなく、少しさみしい研修でした。

一日目から三日目までは、加須市にある埼玉県立加須青年の家を拠点に、短い時間ではありましたが、地元の青年たちと交流を重ねました。交流では、青年団活動を中心に話し合いました。埼玉県と聞くと、東京近郊というイメージが強く、青年団活動なんてやっているのだろうか、というのが最初の印象でしたが、その思いとは反対に活発な活動には驚きました。交流した青年団体は、北埼玉郡の八市町村の青年で構成されていて、団員の中には、青少年相談員協議会や農業研究団体連合会4H部に所属している人もいました。そのほかに埼玉県内には、青少年の団体が十六もあり、この加須青年の家は、県で初めての青年のつどいが開かれた所でもあります。

二日目は、さいたま水族館、さいたま古墳群、手描きの鯉のぼり作業所の見学などがありました。特に手描きの鯉のぼりは、昭和九年に皇太子殿下の初節句に献上されたそうです。

三日目は加須市を離れ、寄居町に向かいました。三日目と四日目は研修日程に余裕があり、長瀞の社会見学など少し観光気分を味わいました。

今回の研修では、埼玉県の産業・文化や青年団体活動について研修を行ってきたわけですが、私たちのところの活動に比べると活発だな、ということが印象的であり、交流で知り合った人たちが皆親切な人たちばかりで、いい研修になりました。ここで学んだことを今後の自分の生活の中に生かしていきたいと思います。また村の青年団体活動についても、もう一度見直し考えてみたいと思います。

樋浦清美

(和納6区・20歳)

〝ダ・サ・イ〟つける前にもっと……――なんて決め

七月十九日――私たち「青年県外研修派遣団員」の三人は、三泊四日の日程で研修先の北埼玉へと出発しました。

燕三条駅から新幹線で埼玉県の熊谷へ。そこから秩父線に乗り換え、最初の研修先である加須市の県立加須青年の家へと向かいました。この秩父線の窓から見える一面の田園風景に、私たち研修団員は「すごぉ~く、ローカルなところだね…」と口々に言い合い、この景色が地元岩室村のそれと共通していることを確認しました。

青年の家では、「北埼玉の産業・文化について」と「埼玉県の青年活動について」の講義がありました。また、私たちのために各地区から集まってくれた地元の青年たちとの交流会も行われました。それに目で学ぶ産業や文化、歴史ということで市内見学もありました。これら主だった研修内容を通じて、私が最も痛感したことは、私たちの住んでいる岩室村の恵まれた〝自然環境〟をもっとよく理解しなければならない、ということでした。岩室村は〝海あり山あり温泉あり〟とその名のとおり観光地として、また米をはじめとする農産物や日本海の海産物の産地として発展してきた地域ですが、都市から離れた所に位置しているなどの理由から近年、特に若者の間では「これから先の地域発展は、地元にいる(暮らしている)同世代の若者たちだけが担っていけばよい」という考え方をしている人が多いようです。地域に結びついた団体活動を今の流行語で「ダ・サ・イ」と決めつけてかかる前に、自分の行動範囲の中で「参加できることには積極的に参加しよう」という気持ちを一人ひとりが持つべきだ、と思いました。これは私を含めた地元の青年たち、広く言えば新潟県に住むすべての若者の課題だと思います。

最後に、この研修では多くのみなさんにお世話になりました。宿泊先であった加須青年の家の先生方をはじめ、青年活動について親身になってアドバイスをしてくれた埼玉の青年たち、三代続いているという手描きの鯉のぼりを自宅で見学させてくれた加須市の職人さんなど、研修先で出会った人たちは、皆それぞれ親切でした。また村の青年団体活動の活性化のため、この研修を企画してくれた村当局に感謝しています。

研修で体験しそして得たものをこれからの生活の中に大いに役立たせていきたいと思います。